


平成29年度日本看護系学会協議会 講演  
「高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン」開発から

平成29年度日本看護系学会協議会 講演  
看護ケアガイドライン開発と看護系学会の役割

「高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン」開発から

平成 29年 6月 28日

森 恵美  
千葉大学大学院看護学研究科  
<http://www.n.chiba-u.jp/mamatasu/index.html>



国立大学法人 千葉大学  
大学院看護学研究科 看護学専攻 森 恵美

ガイドライン開発の背景

平成22～25年度内閣府先端研究助成基金助成金（最先端・次世代研究開発支援プログラム）に採択

研究課題名  
「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」 研究代表者：森恵美

国立大学法人 千葉大学  
大学院看護学研究科 看護学専攻 森 恵美

講演の内容

- 社会的背景と学術的意義
- ガイドライン開発の背景
- エビデンスに基づくガイドラインの開発
- ガイドラインの概要と評価
- ガイドラインの開発における課題
- ガイドラインの普及に向けての課題
- 看護系学会の役割

国立大学法人 千葉大学  
大学院看護学研究科 看護学専攻 森 恵美

研究プロジェクトの概要

本研究プロジェクトの目標  
産後の健康状態等を看護の立場から査定して、**35歳以上の母親**が、出産直後よりその人にとって**必要な支援を受け、健やかにかつ楽しく初めての子育てを担えるための看護指針**を開発することである

本研究プロジェクトの特色  
産後の**母親の健康状態**や**子育て支援**の実際について初めて**大規模の追跡調査**が可能となり、追跡調査により高年初産婦の疲労回復過程や子育て支援ニーズ、並びにその査定方策が明らかになり、**子育て支援が最も必要な産後1ヶ月間の看護指針**が初めて開発される

国立大学法人 千葉大学  
大学院看護学研究科 看護学専攻 森 恵美

社会的背景と学術的意義

- ・ 少子化と晩婚化、晩産化
- ・ 高年初産婦の急増、2013年全体の9%↑
- ・ 分娩施設の集約化、入院期間の短縮
- ・ 加齢に伴う産後の回復の遅れ
- ・ 子育てストレス、育児不安
- ・ 子育てサポート体制の脆弱、孤立化
- ・ 産後うつ病、子どもの虐待
- ・ 高年初産婦ケアに関するエビデンスがない

国立大学法人 千葉大学  
大学院看護学研究科 看護学専攻 森 恵美

研究プロジェクトの概要

研究1  
産後4か月間における産後の生活活動と身体的心理社会的健康状態に関する縦断研究：35歳以上、20歳代初産婦の生活と健康を追跡調査

研究2  
産後半年間にわたる産婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究：関東・関西の分娩施設の協力を得て、年齢・経産回数に関わらず追跡調査

研究3  
システマティックレビュー(SR)：クリニカルクエスチョンを5つ設定し、高年初産婦のケアニーズ5つに対応したエビデンスの系統的検索・収集・分析・統合

1. 高年初産婦の産後1か月間の子育て支援ニーズの明確化  
2. 子育て支援ニーズに対応した産後看護介入の提示と外部評価

高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインを開発

国立大学法人 千葉大学  
大学院看護学研究科 看護学専攻 森 恵美

### エビデンスに基づくガイドラインの開発

#### 研究3: システマティックレビュー

- 公益財団法人日本医療機能評価機構が運営する医療情報サービス事業 (Medical Information Network Distribution Service; Minds) の「診療ガイドライン作成ワークショップ資料集 (暫定版、2013年)」の作成手順を参考
- 英語論文と日本語論文
- 研究2の研究結果も含める
- SRのプロトコール作成

最先端・次世代研究開発支援プログラム (NEXTプログラム) 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発

7

### 高年初産婦へのケアガイドライン作成のための 臨床的 クエスション (CQ)

- CQ1. 単胎児分娩後の高年初産婦において、産後1か月までの蓄積疲労予防のためのケアは何か。
- CQ2. 単胎児分娩後の母乳育児希望の高年初産婦において産後1か月までの母乳育児を推進するためのケアは何か。
- CQ3. 単胎児分娩後の高年初産婦において、産後1か月までの産後うつ病の予防のためのケアは何か。
- CQ4. 単胎児分娩後の高年初産婦において、産後1か月までの肩こり、腰背部痛、腱鞘炎軽減のためのケアは何か。
- CQ5. 単胎児分娩後の高年初産婦において、産後1か月までの母親役割の自信と母親であることの満足感を促すケアは何か。

最先端・次世代研究開発支援プログラム (NEXTプログラム) 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発

10

### エビデンスに基づくガイドラインの開発

1. PICO、臨床的クエスション (Clinical question; CQ) の設定
2. エビデンスの選択基準と除外基準の定義
3. PubMed, MEDLINE, PsycINFO, the Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature, the Cochrane Central Register of Controlled Trials, the Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature、医中誌Webの全年代 (データベース開始時～2013年7月まで) CQごとに系統的・網羅的な文献検索

最先端・次世代研究開発支援プログラム (NEXTプログラム) 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発

8

### システマティックレビューの記録

- データベース検索結果記録用紙
- 文献フローチャート (別紙) に記入
- 二次スクリーニングの結果をアブストラクトフォーム (一次研究用・SR用)
- 二次スクリーニングで除外された文献リスト
- 各アウトカムに対するエビデンス総体評価結果を「エビデンス総体用評価シート」にまとめて、CQに対する全体のエビデンスレベルを1つ決定する。

最先端・次世代研究開発支援プログラム (NEXTプログラム) 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発

11

### エビデンスに基づくガイドラインの開発

4. ガイドライン作成に使用する文献選択 (2名以上のレビューアが別々に行う) 一次スクリーニング
5. 二次スクリーニング
6. 文献の批判的吟味と要約の書き出し アブストラクトフォームへの記載
7. 「エビデンス総体用評価シート」に記述 CQの看護介入ごとのエビデンスの強さ決定

最先端・次世代研究開発支援プログラム (NEXTプログラム) 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発

9

### 産後の蓄積疲労予防ケア 検索・スクリーニングフローチャートと結果

データベース	件数
CORCT	(17)
CDSR	(2)
MEDLINE	(148)
CINAHL	(117)
PsychINFO	(56)
PubMed	(156)
医中誌Web	(100)

Records identified through database searching (n = 594)

Records after duplicates removed (n = 400: 洋300和100)

一次スクリーニング: Records screened (n = 400: 洋300和100) → Records excluded (n = 369: 洋282和87)

二次スクリーニング: Full-text articles assessed for eligibility (n = 31: 洋18和13) → Full-text articles excluded, with reasons (n = 27: 洋14和13)

Studies included in qualitative synthesis (n = 4: 洋4和0) (森ら、2015より)

最先端・次世代研究開発支援プログラム (NEXTプログラム) 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発

12

平成29年度日本看護系学会協議会 講演  
「高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン」開発から

### 産後の蓄積疲労予防ケアのエビデンス総体評価

看護介入	研究デザイン	バイアスリスク	非一貫性	不精確性	非直接性	その他	上昇要因	効果指標(MD) 統合値	Hedges' g	エビデンスの強さ
授乳姿勢	CCO ケースコントロール	-2	0	-2	0	0	-	-2.0 -1.0	0.542	D
情報提供	RCT	-2	0	0	0	0	-	4週目 -14.43	0.636	B
運動プログラム	CC ケースコントロール	-1	0	-1	0	0	+2	身体 -1.650 精神 -1.310	身体 (0.58) 精神 (0.52)	C

森他：産後の蓄積疲労予防のための看護介入に関するシステムティックレビュー—日本の高年初産婦への適用に向けて—、千葉大紀要、37、38-45、2015。

### ガイドラインの推奨草案

1. CQ1:産後の蓄積疲労予防のための産後入院中のケアは何か
2. 推奨草案  
褥婦と児と一緒に寝られるベッド幅であることや安全柵などで安全性が確保されていることを前提に、経産分娩を経験した褥婦には、添い寝授乳の実施を支援する。
3. 推奨に関連する価値観や好み  
添い寝授乳実施に伴う児への危険性の報告がある。…行うかは不明である。
4. 重大なアウトカム全般に関する全体的なエビデンスの強さ(いずれかに○) A(強) B(中) C(弱) OD(非常に弱い)
5. 推奨の強さの判定 2D 推奨の強さに影響する要因、判定、説明
  - ・アウトカム全般に関する全体的なエビデンスが強い
  - ・益と害のバランスが確実(コストは含まず)
  - ・患者の価値観や好み、負担の確実さ(あるいは相違)
  - ・正味の利益がコストや資源に十分見合ったものかどうか

### エビデンスの強さの意味

エビデンスの強さ	
A: 強	効果の推定値を強く確信できる
B: 中	効果の推定値に中程度の確信がある
C: 弱	効果の推定値に対する信頼は限定的である
D: 非常に弱い	効果推定値がほとんど信頼できない

公益財団法人日本医療機能評価機構が運営する医療情報サービス事業(Minds: Medical Information Network Distribution Service)の「診療ガイドライン作成ワークショップ資料集(暫定版、2013年)」より

### 診療ガイドラインの外部評価

診療ガイドライン評価ツールAGREE II (Appraisal of Guidelines for Research & Evaluation II)

- 6領域: 23項目
  - ①対象と目的
  - ②利害関係者の参加
  - ③作成の厳密さ
  - ④提示の明確さ
  - ⑤適用可能性
  - ⑥編集の独立性
- 全体評価: 2項目

### エビデンスに基づくガイドラインの開発

4. 一次スクリーニング 2人以上×8
5. 二次スクリーニング 2人以上×8
6. 文献の批判的吟味と要約の書き出し  
アブストラクトフォームへ  
「エビデンス総体用評価シート」に記述  
コンサルテーション: 整形外科医、精神科医、疫学者等
7. 推奨草案とエビデンスの強さの決定
8. 外部評価(6人)、パブリックコメント
9. ガイドラインの公表

### 診療ガイドライン評価ツール

診療ガイドライン評価ツールAGREE II (Appraisal of Guidelines for Research & Evaluation II)

- 各項目: 7段階(1—全く当てはまらないから 7—強く当てはまるまで)で評価
- AGREE IIの評点
  - \* 6領域の評点  
(獲得評点—最低評点) ÷ (最高評点—最低評点)  
領域別評点%として算出、解釈
  - \* 全体評価
    - 1) 全体の質を評価する—7段階
    - 2) このガイドラインの使用を推奨する—7段階

平成29年度日本看護系学会協議会 講演  
「高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン」開発から

**ガイドラインの開発における課題**

- SR(Systematic Reviews)に協力してくれる図書館司書の確保
- SRが担当できる研究者の確保、作業負担と対価  
Minds研修会とMindsのマニュアル  
Cochrane Database of SR  
the Joanna Briggs Institute
- SRプロトコルの作成
- SR用のデータベースの確保  
Medline、PubMed、CINAHL、Embase

**看護系学会の役割**

- 作成母体となる学会内でのケアのガイドラインについての必要性合意
- 医師等関係職種への理解促進
- 作成母体学会内の意思決定、予算化
- 組織作りと作業分担・著作権
- 次回改訂について意見交換、決定
- 英語版、短縮版、一般人用などについて決定
- 作成母体とならない学会による支援

**ガイドラインの開発における課題**

- 第1次スクリーニング、第2次スクリーニングの文献の収集と保存・整理・共有
- ガイドライン開発委員会の多様な構成者の確保と作業負担・対価  
\* SRの作業をする看護学研究者  
\* 看護学以外の専門家、関係有識者  
\* 当事者
- ガイドライン開発委員会の会議、予算措置
- パブリックコメントの収集、予算措置
- 外部評価会議の開催、予算措置

平成29年度日本看護系学会協議会 講演  
看護ケアガイドライン開発と看護系学会の役割  
高年初産婦に特化した産後1か月までの  
子育て支援ガイドライン

ご静聴どうもありがとうございました。  
座長の高橋眞理先生、本研究参加者、協力者、共同研究者の皆様  
に心よりお礼を申し上げます

mama+ 育児支援ガイドライン開発研究プロジェクト



森 恵美

千葉大学大学院看護学研究科  
<http://www.n.chiba-u.jp/mamatasu/index.html>

**ガイドラインの普及に向けての課題**

- MindsのHP掲載(審査の上):無料、公共性重視
- ガイドラインの適用に向けての研修会開催
- 研修会(出前研修)、アウトリーチ活動
- 適用上の困難等へのフォローアップ
- 必要経費とボランティア
- 教材の開発
- 英語版の作成
- ガイドラインの改訂